

【題 目】 大曼荼羅本尊 紙本墨書

【鑑定書】 有

【作者名】 日蓮上人

【時代・作成日】 鎌倉時代 1280年11月

【寸法】 縦196.8cm 横108.1cm

【希望販売額】 6億円 價格応談

【備考】

日本で唯一の大型曼荼羅本尊である。

日蓮の本弟子・・・日昭・~~日朗・日興・日向・日頂・日持~~の6人。

日蓮が、弘安三年(1280年)11月日に身延山で揮毫し、弟子日照(日昭)に与えた、十二枚継ぎの堂々と勢いのある大型曼荼羅本尊である。

太い穂先の筆で「南無妙法蓮華経の題目等を揮毫し、点画の一部は筆を重ねて豪快さを出している。

仏・菩薩等の尊名は、筆を代えて丹念に書き列ねている。

脇書に「釈子日照伝之」とあることから、特に「伝法本尊」と呼ぶ。

「日照」は、日蓮よりも年長の弟子で、後に「本弟子」の筆頭にあげられた日昭である。

この曼荼羅本尊の紙背には剥がした跡があり、おそらく須弥壇の奥の板壁に貼って掲げた一時期があったと思われ、法華堂の規模の大きさが推測される。

『日蓮(花押)』の向かって右上には、「仏滅度後二二三余年間之間、一暗闇提之内、未曾有之大曼荼羅也」とあり、末法の世にはじめて書き表した大曼荼羅本尊である。

※大曼荼羅本尊は、山梨県指定文化財登録済みとの事。表に出せば大問題

になるとの事です。

大曼荼羅本尊写真

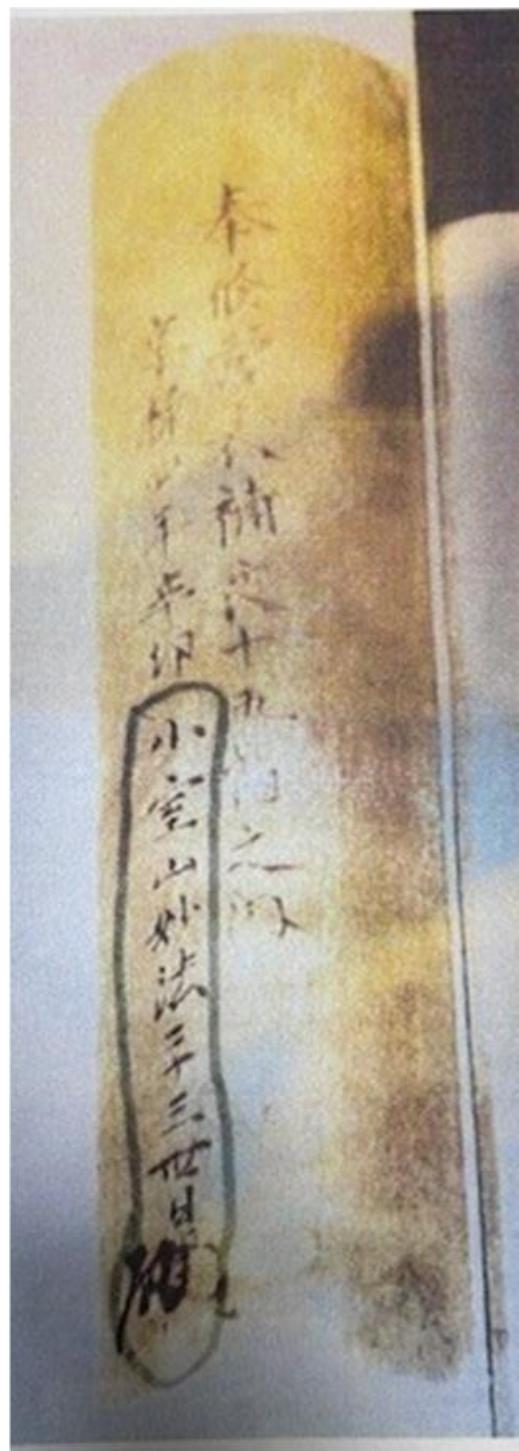


日蓮上人 縁起書

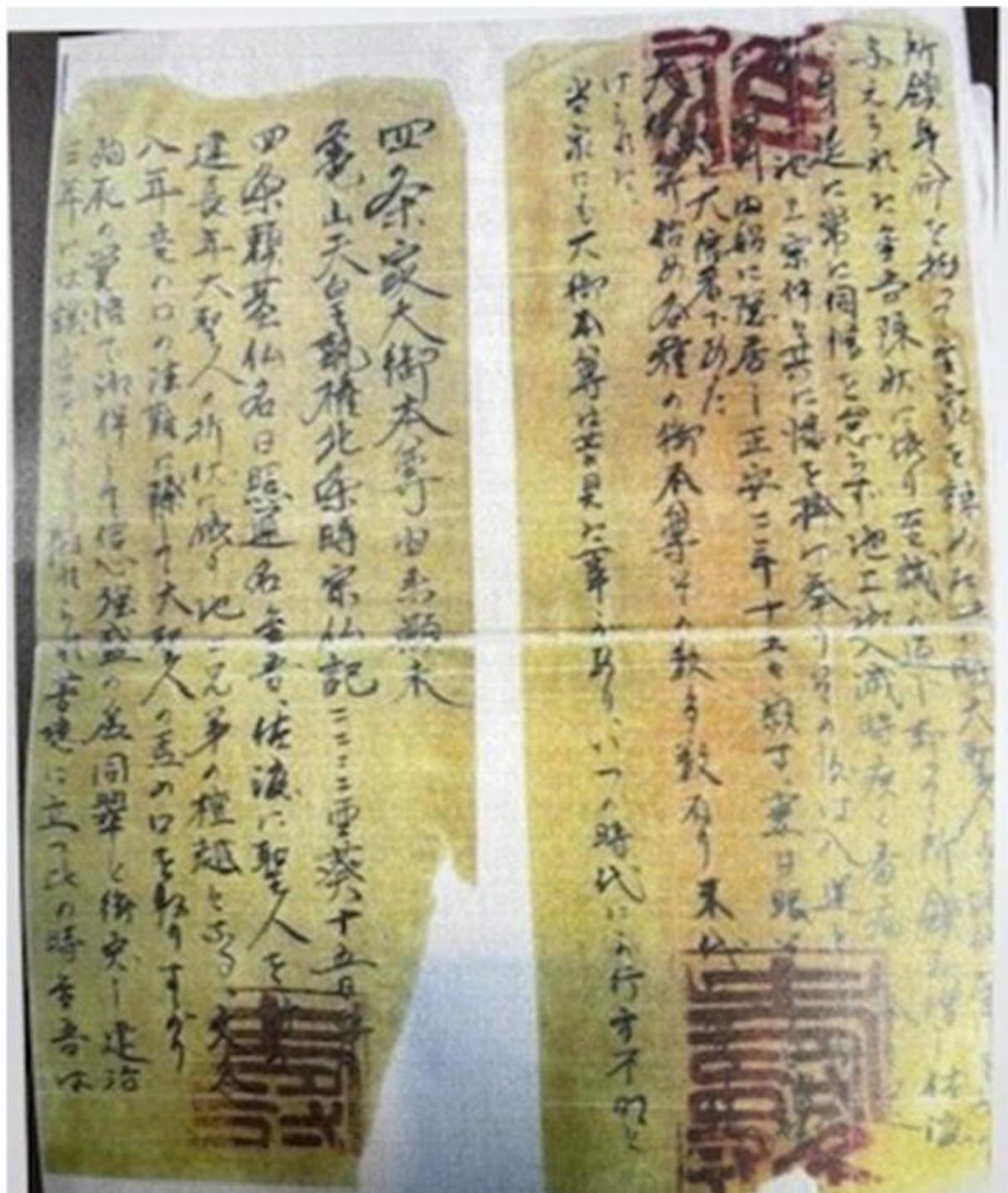


小室山妙法寺に有ったとされるものが、この物に貼り付いていた証

小室山妙法三十三世書



四条家の鑑定書



鑑查狀

第七九二五號

一曰蓮大聖人御真筆

大曼陀羅

大曼陀羅
諸天之像

幅

右墨跡紙質比類為可處燃之候也

明治三十一年十月廿一日

總理全國寶物取調委員長正三位勳一等男爵 九鬼隆一

男爵九鬼隆一



鑑定書「明治三十一年」：全國寶物取調委員長正三位勳一等男爵 九鬼隆一



101 王澤妙法華寺藏

曼陀羅の言い伝え

曼陀羅伝来は別紙通りですが、伝来以上に重要な事は曼陀羅に関する「言い伝え」です。

「光祥」僧は中山法華寺にて修業時、三名の修業僧の内一人、出身地紀州「現在の和歌山県人」であつた。中山法華寺代四十五世「日姫上人」の下で修業された。修業後「日姫上人」より、建立は出身地の「紀州」で無く、「越前の地」をと言われたそうです。又修業後「日姫上人」より「光祥」の命名を受ける。修業終えた「光祥」僧は「越前の地」に足を入れましたが、「越前の地」は海土東宗が広がつており、誰にも相手にされず、多日過ようやく「府中」現在の「武生」で前に日野山、左に府中の町を見る山中に~~寺~~建立し、初代住職「光祥」と成る。

言い伝えの中で、最重要な事は、昭和二十三年福井大震災、死者行方不明者は、今でも正確な人数で無く、数千人と言われ大変な事態に成った事です。しかし、大震災は大変な揺れて「武生」の町を震い、屋根瓦が落する、レールが曲がる被害にも、水災、死者が無かつた事は真実であり、この様な天変地変の事態は信じられない事だつたが言い伝えによると、「御本尊様」が守つて下さつた。又「越前の地」へ~~建立~~の意味が初めて理解出来たと。
もつと震源地の近くに、揺動されていたら最も最小限の災害で済んだであろうと。
いかに「本御本尊曼陀羅」のお力が必要かを。

まだまだ言い伝えをお聞きしましたが、強く印象に残つた事や伝え致します。

総代 金山 重四郎八十九才談

高祖日蓮聖人大曼荼羅鑑定人及び鑑定に携わった先

1、明昌文研 東洋古美術 075-391-3056

由利 登志夫 京都市西京区桜原内垣外町 25-16

2、大石寺 富士宮 永長氏 05844-58-0800

3、小室山徳栄山妙法寺 山梨県南巨摩郡積町山室 0556-22-0034

4、立正安国会 井上教授(元)富士宮在中

(日蓮聖人眞蹟集解記 山中喜八の弟子)

5、立正大学 仏教学部長 三友健容氏 埼玉県三郷 高岩寺住職

6、山梨県 身延山 執事長 丸茂先生 0556-62-1011